

# グリーンコープは すべてのゲノム編集食品の 規制と表示を求めます!



「食の安全を守りたい」と、組合員の力を合わせて集めた署名74,711筆（2019年12月18日現在）を前にしたグリーンコープ共同理事会の皆さん

# 共生の時代

みどりの地球を  
みどりのままで

2020 2月

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同理事会  
■編集：共生の時代・編集部  
■〒812-8561  
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号  
博多大博通ビルディング3階  
TEL 092 (481) 7923  
FAX 092 (481) 7876  
<http://www.greencoop.or.jp/>

## Contents

ゼンさんの本出版記念講演会	2・3
名島げんきもりもりハウス開所	4
単協発 ひろしまK&Sかきのきオープン	5
単協発 みやざきまつり	
2019年度 酪農生産者交流会	6
グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協(島根) 吾郷 一二実さん	7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

**チェック!**  
グリーン・市民電力で、  
家庭用太陽光発電の  
余ったでんきを買い取ります!

2020年2月、まずは九州電力エリアからスタートし、中国電力と関西電力のエリアでの買い取りの準備をすすめています。

※家庭用太陽光発電の余剰電力の買い取り制度(FIT)の期間満了を迎える皆様を対象となります。

グリーンコープは、安心・安全な食べものを守るため、遺伝子組み換え(GM)作物・食品やゲノム編集された食品に対して、規制と表示を求められています。2019年には、ゲノム編集食品の昨年秋に、グリーンコープの各生協が署名を呼びかけた様子と、9月に東京で開かれた院内学習会について報告します。

### ゲノム編集食品の安全性審査と表示の義務化を要望

ゲノム編集技術は、遺伝子組み換えよりも簡単でより正確に遺伝子を改造できるとして、この技術を用いた作物や動物が次々と開発されています。日本では、DNAを切断するだけのゲノム編集食品は、規制の対象外と決まりました。ゲノム編集された食品が安全性の評価や食品表示がまままま食卓にのぼることになります。

私たち消費者は、食べたくないと思っても、規制も表示義務もないため、知らないうちに口にしようとするかもしれません。このことに多くの問題や危険性があると考えた「遺伝子組み換え食品 いらぬ! キャンペーン」は、すべてのゲノム編集食品・作物に対して、きちんと安全性審査を行



ゲノム編集食品の規制と表示を求める署名を呼びかける、ふくおか組合員の外間さん

### オールグリーンコープで7万筆を超える署名を提出

グリーンコープの各生協では、2019年秋に組合員へ署名を呼びかけました。

グリーンコープ生協ふくおかでは、ゲノム編集食品の問題についての資料やグッズを作るなど、工夫を凝らして組合員へ伝えました。福岡なか支

い、表示を義務化してほしいと署名を呼びかけました。それに応じて、グリーンコープや全国の消費者・生産者をはじめ多くの市民が、署名運動に取り組みました。

部中央きた地域委員長の外間とも子さんは、「秋の組合員のつどい」に参加した組合員に署名を呼びかけました。「ゲノム編集って変だよ、気持ち悪いよね」と、ストレートに伝えました」と言います。参加者からは「ゲノム編集食品のことは知らなかった。怖いと思った」という感想が多く聞かれました。中には、「ゲノム編集食品のことは前から気になっていた。グリーンコープのアクションを待っていた」と話す組合員もいました。

各生協から集まった署名は、74,841筆(2020年1月14日現在)。署名は、2020年1月30日に東京で開かれた院内学習会で、出席した各生協の担当者へ渡しました。

### グリーンコープ以外の 全国から集まった8万筆を 超える署名提出(第一次集約分)

2019年9月25日、東京の衆議院第2議員会館で開かれた署名提出院内学習会では、会場に入りきらないほど多くの参加者が全国から集まりました。厚生労働省、農林水産省、環境省、消費者庁の担当者へ、第一次集約で集まった、82,552筆の署名が手渡されました。

### 安全性への疑問には 回答を得られず

院内学習会の冒頭の挨拶で、「遺伝子組み換え食品 いらぬ! キャンペーン」代表の天笠啓祐さんは、「2018年の夏、私たちはゲノム編集食品が食卓にのぼる可能性があることを知りました。ほとんどの市民がゲノム編集食品とは何かということを知りません。規制の枠組みが決まり、結局は環境影響評価も必要ない、食品の安全性審査も必要ない、食品表示も必要ないという方向にすすんでいきました。遺伝子組み換え食品とゲノム編集

食品はどう違うのか、ゲノムという言葉自体もまだ多くの人に知られていません。この問題は食の安全を左右する大事なことであり、もっと広く一般市民の理解を得てから決めるべきではないでしょうか」と強く訴えました。

ゲノム編集食品・作物の安全性に関する質問状を、各生協へ事前に届けて回答を求めましたが、当日、すべてのゲノム編集食品・作物に対して、安全性審査や表示についての明確な回答は得られませんでした。

集会に参加したグリーンコープ生協おおいの薬師寺ひろみさんは、「私たちは、将来にわたってずっと子どもたちに安全なものを食べさせたいと考えて活動しています。治験データを集めると言われましたが、治験者になるのは子どもたちです。これからどんどんゲノム編集食品が市場に出回っていくことはとても不安です」と発言し、会場からは賛同する大きな拍手が起こりました。

※生物多様性への影響についての評価